

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第7週 （2月13日～2月19日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

高知県全域で警報値である30.0を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第6週の41.63から第7週では33.67と減少しました。幡多で増加し、その他の地域では減少しましたが、県全域と中央西、高知市、須崎、中央東で警報値を超え、幡多と安芸でも注意報値を超えていることから引き続き注意が必要です。

迅速検査ではインフルエンザA型が99.4%、B型0.6%と検出割合に大きな変化はありません。

病原体検出情報では第7週に搬入された検体で須崎、高知市、幡多からInfluenza virus A H3 NTが計6件、須崎からInfluenza virus A H1pdm09が1件、高知市からInfluenza virus B/Victoriaが1件検出されています。

学校等における集団発生の報告でも学年、学級閉鎖の報告が続いています。

全国では定点医療機関当たりの報告数が第5週の38.14から第6週では28.57と減少しています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第2～6週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く92.5%、次いでB（ビクトリア系統）が4.36%、AH1pdm09が1.41%、B（山形系統）1.41%、B（系統不明）が0.35%の順でした。

インフルエンザの流行期に入っていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

症状がある方は咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も感染予防には有効です。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第7週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前	
	第7週		第6週		第5週		第4週		第3週		第2週		第1週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	33.67	△	41.63	△	50.60	△	39.94	△	28.75	○	14.25	○	10.21	○
安芸	14.50	○	26.75	○	26.25	○	32.00	△	21.00	○	12.00	○	3.75	-
中央東	30.73	△	37.82	△	34.91	△	36.27	△	24.91	○	8.73	-	8.91	-
高知市	39.31	△	52.06	△	67.44	△	48.88	△	31.00	△	20.56	○	12.81	○
中央西	40.80	△	52.40	△	69.00	△	40.80	△	28.40	○	13.20	○	14.20	○
須崎	37.00	△	37.25	△	38.25	△	21.75	○	13.50	○	9.00	-	11.25	○
幡多	29.88	○	28.88	○	45.38	△	39.63	△	41.25	△	13.63	○	7.00	-

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第7週	0	0	0	0	0	0	0
	累計	3	0	0	1	2	1	7
学年閉鎖	第7週	0	0	0	1	0	0	1
	累計	10	5	14	5	9	10	53
学級閉鎖	第7週	0	1	6	1	0	1	9
	累計	2	3	56	4	1	6	72

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- 咳・くしゃみが出たらマスクをしましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはフタつきのゴミ箱に捨てましょう。
- 咳・くしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗いましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- マスクの装着は説明書を読んで、正しく着用しましょう。

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザ Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

幡多と高知市で注意報値である 4.00 を超えています。

定点医療機関からの報告数は第6週の2.47から第7週では3.07と増加しています。幡多、高知市、須崎、中央東で増加し、幡多と高知市では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では12例の報告があり、うち1例はインフルエンザA型と溶連菌感染症の同時感染でした。また、病原体検出情報では第7週に搬入された検体で須崎から *Streptococcus pyogenes T1* が1件検出されています。

感染症情報収集システム※でも20例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人、特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第6週の6.77から第7週では6.27と横ばいです。県全域から報告があり、高知市で増加しています。

定点医療機関からのホット情報でノロウイルス7例、カンピロバクター腸炎2例に加えて、胃腸炎が増えているとの報告もあります。

病原体検出情報では第6週に臨床診断名：感染性腸炎として搬入された検体で須崎から *Astrovirus NT* と *Norovirus GII NT* が各1件検出され、また、第7週に臨床診断名：消化器疾患として搬入された検体で中央東から *Norovirus GII NT* が1件検出されています。

感染症情報収集システム※でも32例の報告があることから、今後も引き続き注意が必要です。

特に乳幼児や高齢者、体力の低下している方は下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあります。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便や嘔吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

調理をする場合には、中心部まで十分に加熱しましょう。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

- 厚生労働省 「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」

<https://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第6週の0.63から第7週では0.13と急減しています。

定点医療機関からのホット情報は7例、感染症情報収集システム※は9例と以前に比べると報告数は減少してはいますが、引き続き注意が必要です。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

全てのマダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。

予防するためのワクチン等はありません。

マダニやツツガムシは野外に生息しています。野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、ダニに咬まれないようにしましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>






●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

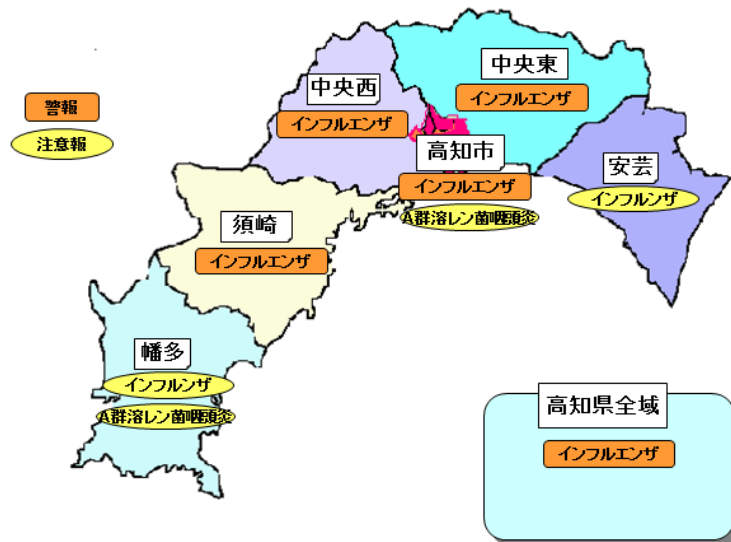
★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）  : 急増  : 増加  : 横ばい  : 減少  : 急減

7週（2月13日～2月19日）

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
インフルエンザ		33.67	幡多で増加しています。 県全域と中央西、高知市、須崎、中央東では警報値を超え、幡多と安芸では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎		6.27	高知市で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		3.07	幡多、高知市、須崎、中央東で増加し、幡多と高知市では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症		0.53	中央西、高知市、須崎で増加しています。
咽頭結膜熱		0.33	高知市、中央東で増加しています。
水痘		0.33	中央西、幡多で増加しています。

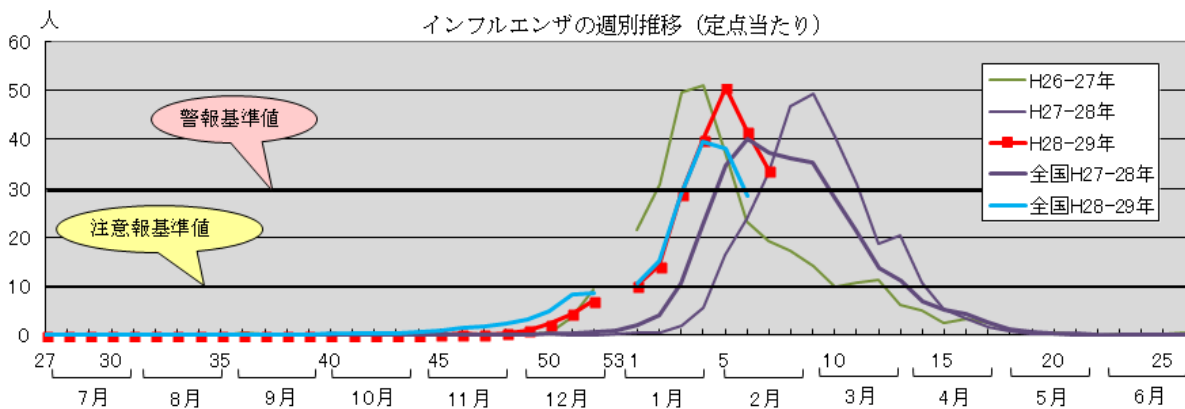
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

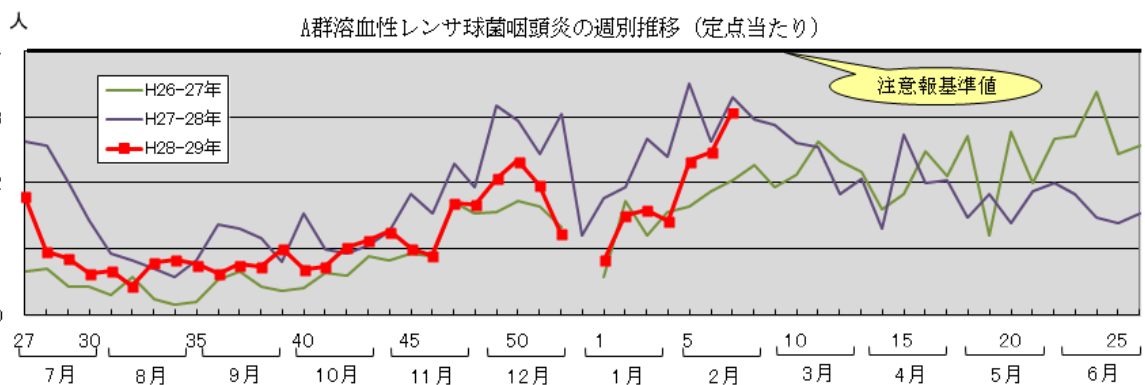
○インフルエンザ 第7週：33.67 (注意報値：10.00 警報値：30.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 33.67 (前週：41.63) と減少しています。幡多で増加し、県全域と中央西 40.80 (前週：52.40)、高知市 39.31 (前週：52.06)、須崎 37.00 (前週：37.25)、中央東 30.73 (前週：37.82) では警報値を超え、幡多 29.88 (前週：28.88)、安芸 14.50 (前週：26.75) では注意報値を超えています。



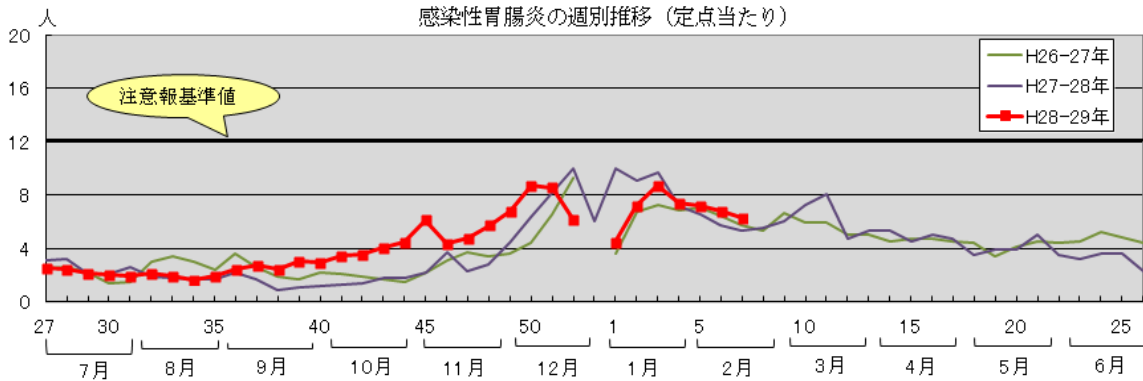
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第7週：3.07 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.07 (前週：2.47) と増加しています。幡多 5.20 (前週：5.00)、高知市 4.18 (前週：3.36)、須崎 2.00 (前週：1.50)、中央東 1.43 (前週：0.29) で増加し、幡多と高知市では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第7週：6.27 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 6.27（前週：6.77）と横ばいです。高知市 6.36（前週：5.18）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
7	急性扁桃炎	4	女	中央東	Human metapneumovirus
7	インフルエンザ様疾患	5	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
7	インフルエンザ	14	女	高知市	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	44	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	6	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	6	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	14	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	14	女	幡多	Influenza virus A H3 NT
7	インフルエンザ	4	男	高知市	Influenza virus B/Victoria
7	消化器疾患	2	男	中央東	Norovirus GII NT
7	百日咳	9	女	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>
7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	男	須崎	<i>Streptococcus pyogenes T1</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	感染性胃腸炎	3	男	須崎	Astrovirus NT
6	感染性胃腸炎	10	男	須崎	Norovirus GII NT
6	無菌性髄膜炎	18	男	幡多	Varicella-zoster virus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	9	20歳代男	中央西
		1	10	60歳代男	須崎
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	3	50歳代男	高知市
		1	4	30歳代女	幡多
	梅毒	1	3	30歳代男	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	インフルエンザ A 型 53 例、症状で診断 9 例
	高知大学医学部附属病院 小児科	(病棟) ヒトメタニューモニア気管支炎 1 例 (7 歳女)
	野市中央病院小児科	インフルエンザは全員 A 型 5 例 (ワクチン済み: 1 人、ワクチン未: 4 人)
	早明浦病院小児科	A 型インフルエンザ (1 歳から 11 歳)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス感染症 3 例 (1 歳男女、2 歳女)
		カンピロバクター腸炎 2 例 (10 歳女 2 人)
		マイコプラズマ肺炎 2 例 (3 歳男、6 歳男)
		ヒトメタニューモウイルス 1 例 (1 歳男)
	高知医療センター小児科	アデノウイルス 2 例 (2 歳女、3 歳女)
		ヒトメタニューモウイルス 1 例 (1 歳女)
		インフルエンザ 7 例 (5 ヶ月男、10 ヶ月男、1 歳女、5 歳女、 9 歳男、12 歳女、15 歳男)
		RS ウイルス感染症 1 例 (1 歳女)
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (7 歳男)
	福井小児科・内科・ 循環器科	インフルエンザ A 型と溶連菌感染症の同時感染 30 代女性
インフルエンザ A 型 44 例、B 型 0 例、ワクチン接種済 6 例		
溶連菌感染症 12 例 胃腸炎が増えている。		
細木病院小児科	ノロ 6 例 (1 歳女、2 歳女 2 人、4 歳女、5 歳男女)	
中央西	石黒小児科	水痘ワクチン 1 回接種済み 4 歳女
		ノロウイルス 6 歳男
		インフルエンザ迅速キット (A 型 55 名、AB 型同時 1 名)
	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A 8 歳女 (須崎市)、10 歳女 (いの町) インフルエンザ AB 11 歳男
須崎	もりはた小児科	インフルエンザ 61 例 B 型 1 例 他 A 型
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ 3 歳女
		インフルエンザ 81 例 全て A 型
	松谷内科	マイコプラズマ 2 例 (34 歳男女: 夫婦) ※子供もマイコプラズマと他院で診断された。
	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎 1 例 (5 歳女)

★全国情報

第5号（1月30日～2月5日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核324例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症9例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎3例、エキノコックス症1例、つつが虫病5例、デング熱1例、マラリア1例、レジオネラ症13例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症24例、急性脳炎13例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群9例、ジアルジア症1例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症47例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒55例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん6例

報告遅れ：E型肝炎3例、デング熱2例、レジオネラ症5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症9例、急性脳炎11例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒39例、播種性クリプトコックス症4例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

★注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

例年のインフルエンザの流行は、11月末から12月にかけて始まり、1月末から2月上旬にかけてピークとなることが多い〔今冬のインフルエンザについて（2015/16シーズン）〕。前シーズンである2015/2016年シーズンは流行の開始時期が1カ月程度遅く、2016年第1週であったが、2016/2017年シーズンのインフルエンザは、定点当たり報告数の増加が例年より早く、2016年第46週に定点当たり報告数は1.38となり、初めて全国的な流行開始の指標である1.00を上回った。その後、年内の増加は比較的緩やかで、年明けより急激に増加し、2017年第4週（前週）の定点当たり報告数は39.41まで上昇した。2017年第5週（2017年1月30日～2月5日：2017年2月8日現在）では定点当たり報告数が38.14で、前週より微減した（インフルエンザの年別・週別発生状況）。都道府県別では、2016年第52週までは東日本の自治体から報告が多く、その後、西日本の自治体からの報告も多くなった。第5週の定点当たり報告数では、福岡県（55.03）、宮崎県（54.02）、愛知県（51.44）、高知県（50.60）、大分県（49.62）、山口県（49.22）、埼玉県（47.06）、千葉県（45.27）、福井県（44.47）、三重県（44.19）の順に多く報告された。第4週が全47都道府県でその前週より多い定点当たり報告数が見られていたのに対して、第5週では19道府県で前週の定点当たり報告数よりも増加が見られたが、28都道府県では前週の定点当たり報告数よりも減少が見られた。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数を推計すると、2017年第5週は約199万人（95%信頼区間：184～214万人）となり、前週の推計値（約201万人）よりも微減した。例年のピーク時の水準である週間200万人前後の推計受診患者数が継続している。年齢別では、5～9歳が約36万人、10～14歳が約30万人、0～4歳、40代がそれぞれ約20万人、30代が約18万人、70歳以上が約17万人、15～19歳が約16万人、20代、50代がそれぞれ約15万人、60代が約12万人となっている。なお、2016年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約947万人となった。また、第1週以降の直近5週間の定点医療機関の受診患者の男女比は、15歳未満の年齢群では1:0.9とやや男性に多く、30代から50代の年齢群では1:1.3と女性に多かった。

基幹定点からのインフルエンザ患者の入院報告数（インフルエンザ入院サーベイランス）は、直近の第5週が1,505例で、前週の1,610例よりも減少した。なお、現時点で、今シーズンの累積入院報告数は70歳以上の高齢者が4,621/8,017例（58%）と半数以上を占めている（インフルエンザの発生状況について）。

インフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間（2017年第1～5週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く92.7%、次いでB型5.6%（山形系統とビクトリア系統の割合は2:3）、AH1pdm09が1.7%であった（インフルエンザウイルス分離・検出速報、病原微生物検出情報2017年2月10日）。AH3亜型に関するHA遺伝子系統樹の解析については、2015/2016年シーズンにクレード3C.2a内に出現したサブクレード3C.2a1株が増加傾向にあり、2016/2017年シーズンに解析が実施出来た株の78.6%を占めている。残る21.4%の株はクレード3C.2aに属しており、クレード3C.3aに属する株は検出されていない（2016年12月26日現在）。また2017年2月8日現在、分離・解析されたウイルス株は全てオセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、およびラニナミビルに対して感受性である（抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス）。

2017年第5週の定点当たり報告数は前週の定点当たり報告数よりも減少したが、現在も全国的に報告数が多い状況が継続している。また、例年はピークを越えてからB型の割合が増加する為、今後の動向についても注意が必要である。

今後も飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫が重要である。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第7週 平成29年2月13日(月)～平成29年2月19日(日)

高知県衛生研究所

定点名 疾病名	保健所	第7週						計	前週	全国(6週)	高知県(7週末累計)		全国(6週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H29/1/2～H29/2/19	H29/1/2～H29/2/12		
インフルエンザ		58	338	629	204	148	239	1,616 (33.67)	1,998 (41.63)	141,666 (28.57)	10,514 (219.04)	796,961 (160.81)		
小児科	咽頭結核熱		1	7			2	10 (0.33)	8 (0.27)	967 (0.31)	39 (1.30)	5,932 (1.88)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		10	46	6	4	26	92 (3.07)	74 (2.47)	6,852 (2.17)	397 (13.23)	35,269 (11.16)		
	感染性胃腸炎	15	53	70	16	3	31	188 (6.27)	203 (6.77)	15,838 (5.01)	1,441 (48.03)	113,849 (36.02)		
	水痘		1	4	3		2	10 (0.33)	6 (0.20)	879 (0.28)	98 (3.27)	7,134 (2.26)		
	手足口病			2				2 (0.07)	1 (0.03)	432 (0.14)	14 (0.47)	3,128 (0.99)		
	伝染性紅斑		1	1			1	3 (0.10)	5 (0.17)	188 (0.06)	33 (1.10)	1,675 (0.53)		
	突発性発疹			5	1	1	2	9 (0.30)	5 (0.17)	1,039 (0.33)	51 (1.70)	6,692 (2.12)		
	百日咳			1				1 (0.03)	2 (0.07)	17 (0.01)	7 (0.23)	141 (0.04)		
	ヘルパンギーナ							()	()	52 (0.02)	()	489 (0.15)		
	流行性耳下腺炎					5	1	6 (0.20)	7 (0.23)	1,677 (0.53)	55 (1.83)	12,825 (4.06)		
	RSウイルス感染症			6	7	1	2	16 (0.53)	16 (0.53)	788 (0.25)	134 (4.47)	6,776 (2.14)		
	眼科	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	()	39 (0.06)	
流行性角結膜炎								()	()	283 (0.41)	5 (1.67)	2,157 (3.12)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	9 (0.02)	1 (0.13)	55 (0.12)		
	無菌性髄膜炎							()	()	13 (0.03)	()	86 (0.18)		
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.13)	5 (0.63)	199 (0.42)	28 (3.50)	1,657 (3.50)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	7 (0.01)	2 (0.25)	46 (0.10)		
感染性胃腸炎							()	1 (0.13)	49 (0.10)	5 (0.63)	217 (0.46)			
計 (小児科定点当たり人数)	73 (22.00)	404 (40.15)	772 (52.21)	237 (51.79)	162 (44.00)	306 (43.28)	1,954 (44.90)			170,961	12,824 (294.67)	995,128		
前週 (小児科定点当たり人数)	125 (35.75)	483 (47.11)	952 (62.76)	303 (66.07)	162 (43.75)	306 (43.28)		2,331 (52.54)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名 疾病名	保健所	第7週						計	前週	全国(6週)	高知県(7週末累計)		全国(6週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H29/1/2～H29/2/19	H29/1/2～H29/2/12		
インフルエンザ		14.50	30.73	39.31	40.80	37.00	29.88	33.67	41.63	28.57	219.04	160.81		
小児科	咽頭結核熱		0.14	0.64			0.40	0.33	0.27	0.31	1.30	1.88		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.43	4.18	2.00	2.00	5.20	3.07	2.47	2.17	13.23	11.16		
	感染性胃腸炎	7.50	7.57	6.36	5.33	1.50	6.20	6.27	6.77	5.01	48.03	36.02		
	水痘		0.14	0.36	1.00		0.40	0.33	0.20	0.28	3.27	2.26		
	手足口病			0.18				0.07	0.03	0.14	0.47	0.99		
	伝染性紅斑		0.14	0.09			0.20	0.10	0.17	0.06	1.10	0.53		
	突発性発疹			0.45	0.33	0.50	0.40	0.30	0.17	0.33	1.70	2.12		
	百日咳			0.09				0.03	0.07	0.01	0.23	0.04		
	ヘルパンギーナ									0.02		0.15		
	流行性耳下腺炎					2.50	0.20	0.20	0.23	0.53	1.83	4.06		
	RSウイルス感染症			0.55	2.33	0.50	0.40	0.53	0.53	0.25	4.47	2.14		
	眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.06	
流行性角結膜炎										0.41	1.67	3.12		
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	0.13	0.12		
	無菌性髄膜炎									0.03		0.18		
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.63	0.42	3.50	3.50		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.01	0.25	0.10		
感染性胃腸炎								0.13	0.10	0.63	0.46			
計 (小児科定点当たり人数)	22.00	40.15	52.21	51.79	44.00	43.28	44.90			294.67				
前週 (小児科定点当たり人数)	35.75	47.11	62.76	66.07	43.75	43.28		52.54						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869